

当日配布した資料に誤りがあったため、資料を一部修正しております。

二級河川佐野川水系の再評価調書

1 事業概要

事業名	二級河川 佐野川水系 河川改修事業
担当部署	都市整備部 河川室 河川整備課 地域河川・ダムグループ (連絡先 06-6944-6039)
事業箇所	大阪府泉佐野市、熊取町地内 佐野川、住吉川、雨山川 流域面積 10.53km ²
再評価理由	再評価後 5 年を経過した時点で継続中
事業目的	佐野川水系では、時間雨量 50 ミリ程度の降雨による床下浸水を防ぐとともに事業効率を踏まえ、時間雨量 65 ミリ程度の降雨による床上浸水を防ぐことを当面の治水目標とし河川改修事業を実施し、治水安全度の向上を図る。
事業内容	<p><河川整備計画></p> <p>河道改修</p> <p>延長 3.46km 河川整備に合わせ、道路橋 12 橋を架替</p> <p>貯留対策</p> <p>新規貯留施設：4 箇所 (ため池 2 箇所、新規調節池、新規遊水池)</p> <p>既設貯留施設：2 箇所 (防災調節池)</p>
事業費	<p>全体事業費：約 72 億円 (約 98 億円)</p> <p>投資済事業費 (平成 29 年度末)：約 10 億円</p> <p>【内 訳】</p> <p>工事費：約 55 億円 (約 51 億円)</p> <p>うち投資工事費：約 9 億円</p> <p>用地費：約 17 億円 (約 48 億円)</p> <p>うち投資用地費：約 1 億円</p>
() 内の数値は整備計画時点のもの	
事業費の変更理由	<p>【事業費変動要因の状況】</p> <p>・既存調整池等の活用や関係者の協力により、新規調節池 (用地費) にかかる費用が削減</p>
維持管理費	約 0.36 億円/年 (治水経済調査要綱に基づく事業費の 0.5%/年)

2 事業の必要性等に関する視点

	【事前評価時点 H25】	【再々評価時点 H30】	【変動要因の分析】
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>【洪水発生時の影響】</p> <p>想定氾濫区域：約 35ha</p> <p>浸水家屋数：約 710 世帯</p> <p>主要公共施設等被害：</p> <p>国道 170 号</p> <p>(河川基本方針対象降雨による)</p>	<p>【洪水発生時の影響】</p> <p>想定氾濫区域：約 26ha</p> <p>浸水家屋数：約 520 世帯</p> <p>主要公共施設等被害：</p> <p>国道 170 号</p> <p>(河川基本方針対象降雨による)</p> <p>社会情勢について、下記のとおり人口や世帯数等微減であるため、大きな変化はないと考えられる。</p> <p>(泉佐野市人口等の動向)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口 H22 比 0.16%増 (H22：100,800 人 H27：100,966 人) 世帯数 H22 比 6.35%増 (H22：39,084 世帯 H27：41,566 世帯) 事業所数 H22 比 2.46%減 (H22：4,884 所 H27：4,764 所) 就業者数 H22 比 3.31%増 (H22：83,215 人 H27：85,970 人) <p>※人口、世帯数は国勢調査、その他は大阪府統計年鑑より</p>	<p>着実な整備による治水安全度の向上</p>
地元等の協力体制等	・特になし	<ul style="list-style-type: none"> 貯留施設 (既存調節池やため池) の治水活用について、地元自治体及び水利組合の協力を得られている。 大阪府内の市町村で構成する大阪府河川協会において、国に対して予算措置等の要望を実施された。 	
事業の投資効果 <費用便益分析> または <代替指標>	<p>・総便益/総費用 (B/C) = 1.6</p> <p>便益総額 B = 111 億円</p> <p>総費用 C = 70 億円</p> <p>建設費 63 億円</p> <p>維持管理費 7 億円</p> <p>【算定根拠】</p> <p>治水経済調査マニュアル (案) H17.4</p> <p>各種資産評価単価及びデフレクター H30.2 月改正</p> <p>※今回評価において、H25 時点の費用便益分析を行ったものを記載。</p>	<p>・総便益/総費用 (B/C) = 2.5</p> <p>便益総額 B = 134 億円</p> <p>総費用 C = 54 億円</p> <p>建設費 48 億円</p> <p>維持管理費 6 億円</p> <p>【算定根拠】</p> <p>治水経済調査マニュアル (案) H17.4</p> <p>各種資産評価単価及びデフレクター H30.2 月改正</p>	・事業費の減少

事業効果の定性的分析 (安心・安全、活力、快適性等の有効性)	【安全・安心】 ・時間雨量 50 ミリ程度の降雨による床下浸水を防ぐとともに事業効率を踏まえ、時間雨量 65 ミリ程度の降雨による床上浸水を防ぐことを目標としている。 【活力】 ・自助、共助、公助が一体となったコミュニティを形成し、市民、事業者、行政の連携による洪水等の災害リスク低減対策の推進と災害時の円滑な避難、防災基盤の強化やハザードマップの整備等により、流域住民にとって安全な暮らしを実現し、活力あるまちづくりをめざす。 【快適性】 ・地域の歴史、文化、自然環境に配慮するとともに、周囲の景観と調和のとれた貴重なオープンスペースとして、ゆとり・やすらぎの空間を提供。		
	【事前評価時点 H25】	【再々評価時点 H30】	【変動要因の分析】
事業の進捗状況 <経過> ①事業採択年度 ②事業着工年度 ③完成予定年度	①2013 年度（平成 25 年度） ②2013 年度（平成 25 年度） ③2038 年度（平成 50 年度）	①2013 年度（平成 25 年度） ②2013 年度（平成 25 年度） ③2038 年度（平成 50 年度）	
<進捗状況>	全体：5%	全体：14% ※事業費ベース	
事業の必要性等に関する視点における判定(案)	・現時点で再度、費用対効果を算出したところ、B/C は 2.5 であり、事業実施の妥当性を有する投資効果が確認できる。 ・流域の中上流域では、洪水リスクがあることから、地元市町からも河川改修事業等の進捗を望まれていること、事業を巡る社会情勢等に大きな変化がないこと等より、事業の必要性に変わりはない。		

3 事業の進捗の見込みの視点

事業の進捗の見込みの視点における判定(案)	・佐野川水系河川整備計画 (H28.5 策定) 及び、大阪府都市整備中期計画(案) (H28.3 改訂) に位置付けて事業を進めており、H29 年度末で、事業の進捗は 14%程度である。これまでも河道改修や既設貯留施設(既存調節池)の改良を推進し、治水安全度の向上に努めるなど、着実に成果を上げており、引き続き事業を継続することが妥当である。
-----------------------	---

4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点における判定(案)	・地元町や水利組合の協力により、既存調節池等の活用と併せ、新規貯留施設のコスト縮減を図った。 ・河川整備計画に基づく整備を予定しているが、更なるコスト縮減や、より効率的な対策等について引き続き検討を行う。
------------------------------	---

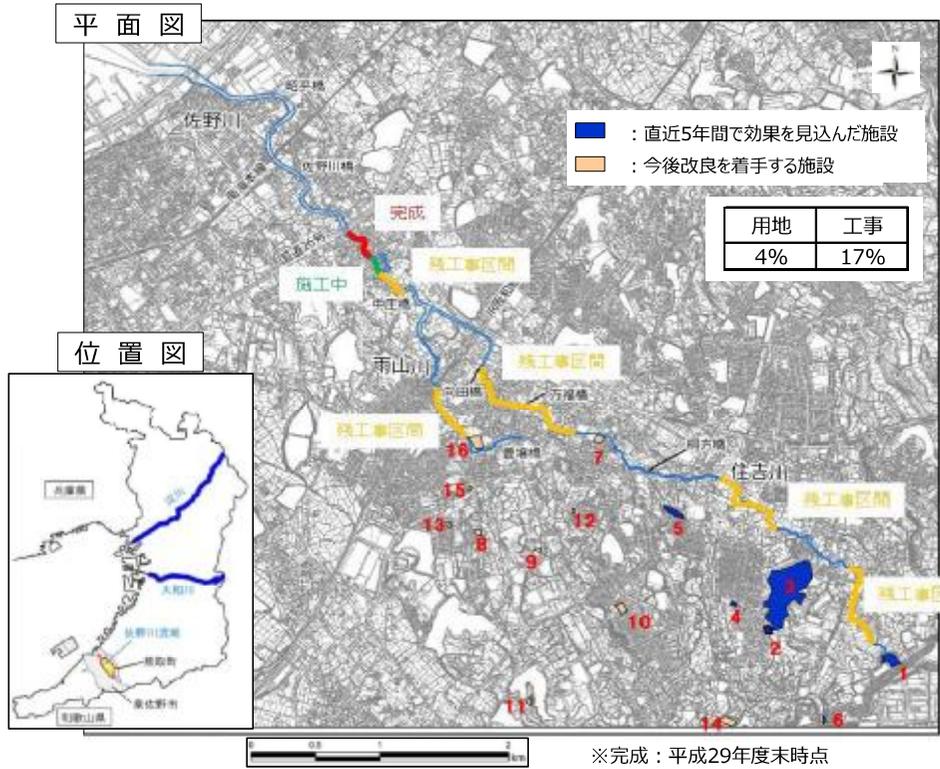
5 特記事項

前回評価時の意見 具申と府の対応	(平成 25 年度大阪府河川整備審議会による審議) 「佐野川水系河川整備計画(変更)」の審議をもって事業再評価とし、本審議会において了承を得た。
その他	(河川防災情報の提供) ・現況での洪水はん濫・浸水の危険性に対する地域住民の理解を促進するため、佐野川水系の洪水リスク表示図を開示している。 ・佐野川の佐野川橋に河川カメラを設置し、河川の洪水リスクや現況水位とともに映像をインターネットで公開している。 ・大阪府などでは、河川のはん濫や浸水に対して、流域関係市町とホットラインを構築し、府民が的確に避難行動を取れるよう情報提供。

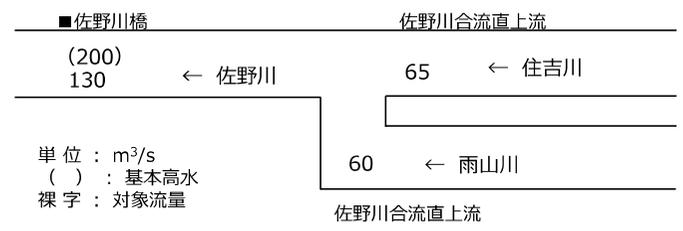
6 対応方針(案)

対応方針(案)	○継続 <判断の理由> ・現時点で再度、費用対効果を算出したところ、B/C は 2.5 であり、事業実施の妥当性を有する投資効果が確認できる。また、流域の中上流域では、洪水リスクがあることから、地元市町からも河川改修事業等の進捗を望まれていること、事業を巡る社会情勢等に大きな変化がないこと等より、事業の必要性に変わりはない。 ・佐野川水系河川整備計画 (H28.5 策定) 及び、大阪府都市整備中期計画(案) (H28.3 改訂) に位置付けて事業を進めており、H29 年度末で、事業の進捗は 14%程度である。これまでも河道改修や既設貯留施設(既存調節池)の改良を推進し、治水安全度の向上に努めるなど、着実に成果を上げており、引き続き事業を継続することが妥当である。 ・地元町や水利組合の協力により、既存調節池等の活用と併せ、新規貯留施設のコスト縮減を図った。 ・河川整備計画に基づく整備を予定しているが、更なるコスト縮減やより効率的な対策等について引き続き検討を行う。 以上の理由より、事業の継続は妥当。
---------	---

二級河川佐野川水系改修事業概要図



流量配分図

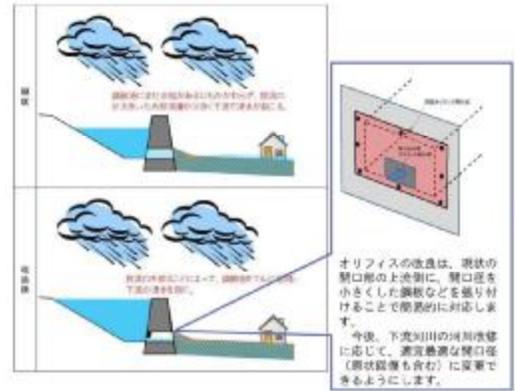


河道改修

河川名	整備対象区間	整備延長	進捗状況
佐野川	国道26号～中庄橋 (1.8km付近～2.5km付近)	約0.70km	約0.30km完成
住吉川	向田橋～桐方橋下流 (3.4km付近～4.6km付近)	約1.15km	未着手
	桐方橋上流～防災調節池 (5.4km付近～6.0km付近、 6.8km付近～7.4km付近)	約1.20km	未着手
雨山川	J R 阪和線～無名橋上流 (3.4km付近～3.8km付近)	約0.41km	未着手

貯留対策

No.	河川名	施設名	管理者	備考
1		防災調節池	大阪府	防災調節池
2	住吉川	南山の手1号	熊取町	開発調整池
3		大池	水利組合	ため池
4		南山の手2号	熊取町	開発調整池
5	和田川	山の手台住宅	熊取町	開発調整池
6		つばさヶ丘	熊取町	開発調整池
7	住吉川	歴史公園調節池	新設予定	新設調整池
8	雨山川	グリーンヒル	熊取町	開発調整池
9		熊取集合住宅(マンション)	熊取町	開発調整池
10		熊取朝代住宅	大阪府住宅供給公社	開発調整池
11		朝代西住宅	熊取町	開発調整池
12		高塚台住宅	熊取町	開発調整池
13		池の台住宅	熊取町	開発調整池
14		大阪体育大学1号	大阪体育大学	開発調整池
15		青葉台住宅	熊取町	開発調整池
16		農地遊水地	新設予定	新設調整池



標準横断面図



※施設の設計に当たっては、河川縦断勾配や曲線等、平面形状による洗堀等を考慮した構造を検討する。

